

第3学年進路通信 ③

H27.10.6

目標へ向かい受験機会を増やす 国公立大学 公募制推薦

国公立大学にも推薦入試があり、入学定員の一部をそれに充てています。県内5大学は下記のとおりです。

群馬大（教育）	33/220	15%
（社会情報）	28/100	28%
（医）	90/268	33%
（理工）	156/510	30%
県立女子大（文）	27/140	19%
（国際）	15/ 60	25%
県民健科大（看護）	35/ 80	43%
（放射線）	15/ 35	42%
高崎経済大（経済）	100/480	20%
（地域政策）	95/420	22%
前橋工科大（工）	28/267	10%

公募制推薦、あるいは一般推薦とよび、書類審査はもちろんのこと、小論文、学力試験、面接を課し、レベルが高く、厳しい選考がなされます。

伊高から何名までという推薦人数制限を設けている場合は、校内選考が必要になることもあります。私立大学の指定校制推薦とは全く違い、本校の内定を取り付けたといえども、必ずしも合格できるとは限りません。

また、例えば、評定平均値 3.5 以上、3.8 以上、4.0 以上、というように成績基準を設けている場合もありますが、実際の合格者はそれよりもはるかに上の成績です。

11 月初旬に出願、11 月下旬に試験、12 月初旬に合格発表、というのが一般的な日程パターンです。試験は小論文をがっちりと課され、長期的に準備してきた計画性と、揺るぎない実力が無ければ対応は難しいと言えます。仮に、10 月～11 月をその準備に全て費やしてしまえば、センター試験と 2 次試験という本来の国公立大一般入試のための勉強に支障が出るでしょう。この時期は**受験生にとって最も重要な時期ですから、力の配分に工夫が求められます。**

大学側としては、コツコツと努力するタイプの受験生を評定平均値の高さでおさえた上で、小論文や学力試験の出来具合によって“地頭”の程度を見極めます。昨年度、私が授業で教えていた当時の 3 年生を思い出すと、確かに、国公立大公募制推薦合格者は皆、実力があり、**輝きを放っていました。**

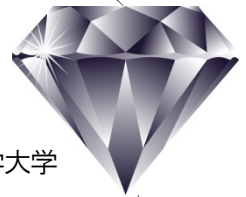
さて、9 月 30 日に校内選考会議をした結果、次のとおり、合計 29 名が出願することになりました。

群馬県内 4 大学・・・21 名

- ・群馬大学
- ・群馬県立女子大学
- ・群馬県立県民健康科学大学
- ・高崎経済大学

※前橋工科大学は無し

上記以外の大学・・・8 名



評定平均	4.5 以上	11 名	昨年度 13 名
	4.4	6 名	3 名
	4.3	4 名	2 名
	4.2	1 名	—
	4.1	2 名	—
	4.0	0 名	—
	4.0 未満	5 名	2 名

昨年度は、20 名が出願し、14 名が合格しました。地元群馬県に在るといっても、国公立 5 大学はいずれもそう簡単には合格できません。しかし、それでも、2 月・3 月の一般入試だけでなく、目標に向かって受験機会を増やす意味からも、是非、果敢に挑戦してほしい。受験生諸君の健闘を祈ります。

前期日程試験の状況は下記のとおり。

群馬大（教育）国語	センター 70%	2 次（小論文）
群馬大（社情）	センター 67%	2 次 57
群馬大（医）保健/看護	センター 68%	2 次（小論文）
群馬大（理工）電子情報理工	センター 67%	2 次 50
県女大（文）英米文化	センター 71%	2 次 58
県女大（国際）	センター 76%	2 次 59
健科大（看護）	センター 71%	2 次（面接）
健科大（放射）	センター 77%	2 次（面接）
高経大（経済）前期	センター 70%	2 次 57
高経大（地政）5 教科	センター 65%	2 次 56
前工大（工）建築	センター 67%	2 次 49